

令和5年度 書道Ⅰ シラバス

科目名	書道Ⅰ	単位数	2単位	対象 部・年次	1・2・3部 3年次
使用教材					
教科書等	書Ⅰ(光村図書)			副教材	なし
学習の目標					
・書くことで文字の美しさを表そうとする書を愛好する心情を育てる。 ・書に親しむ活動を通して、書写能力の向上を図り、自己を表現するための能力を伸ばす。					
学習計画					
学期	学習内容			学習のねらい	
前期	・基本的な用具・用材の理解 ・漢字の書(楷書/行書/篆書) ・創作作品の制作(刻字)			基本的な用具・用材の知識や扱い方に関心を持ち、理解させる。前期では、様々な漢字作品に触れ、臨書学習を通しその作品の技法を学ぶ。 また、文化祭では書道履修者で授業で制作した作品展示を行う。	
後期	・漢字の書(楷書/行書/篆書) ・仮名の書(万葉仮名/変体仮名) ・創作作品の制作(表札)			前期に引き続き、漢字の書の臨書学習から、創作作品の制作に入る。自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫する力を身に付けさせる。 また、全体の習熟度に合わせ、仮名の書に入る場合もある。漢字とはまた違った用筆法を学び、鑑賞させる。	
観点別評価及びその配点					
観点	書道への 関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫		創造的な 書表現の技能	鑑賞の能力
趣旨	書の伝統と文化について関心を持ち、主体的に表現し、授業に積極的に取り組んでいる。	書の良さを感じ取り、感性を働かせながら、自分自身の意図に基づいて、表現を工夫している。		書の基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技法を身に着け、自分なりに表している。	日常生活の書、伝統と文化について幅広く理解し、書の美や良さを創造的に味わっている。
評価の方法	・出席の状況 ・学習の参加状況や態度	・学習の成果 (毎時間提出する作品課題で評価)		・学習の成果 ・小テスト	・考査 (書く能力を問う問題、理論問題を出题)
配点(pt)	200	150		150	500
評価					
観点別評価の合計点(1000pt)により、10段階評価を行う。					
学習のアドバイス等					
1. 毎回の授業にしっかりと出席し、授業内で出た課題を提出すること。 2. 書道に親しみをもち、意欲的に取り組むこと。 3. 様々な古典作品に触れ、臨書学習を通しその作品の技法を身に着けること。					

令和 5 年度 書道Ⅱ シラバス

科目名	書道Ⅱ	単位数	2単位	対象 部・年次	1・2・3部 4年次
使用教材					
教科書等	書Ⅱ（光村図書）			副教材	なし
学習の目標					
・書道Ⅰでの学習を基礎とし、書に親しむ活動を通して、書道Ⅱでは自己を表現するための能力を伸ばす。 ・個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。					
学習計画					
学期	学習内容		学習のねらい		
前期	・漢字の書(楷書/行書) ・展示作品の制作 (古典作品の臨書)		書道Ⅱで学習する中国の代表的な古典(楷書・行書)を鑑賞し、特徴を確認する。また、前期で制作した臨書作品を文化祭の期間作品展示する。		
後期	・漢字の書 (篆書/隸書/楷書/行書) ・創作作品の制作(刻字)		前期に引き続き、漢字の書の臨書学習から、創作作品の制作に入る。創作作品は「刻字」を実施、刻字で用いる用具用材の扱い方に関心を持ち、理解させる。 創作作品を制作させることで、作品の鑑賞力を高め、創造力を伸ばす。書道Ⅰよりもさらに多くの古典を学び、さまざまな技法を習得させる。		
観点別評価及びその配点					
観点	書道への 関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な 書表現の技能	鑑賞の能力	
趣旨	さまざまな書的美に関心をもち、多様な書法を意欲的、主体的に学び、古典の美と価値を学び取ろうとしている。	古典の特徴を捉え、習得した技法を、自身の感性を働かせながら、生かしている。	目的や用途に応じた書表現をするために、効果的な表現の技能を身に着けて、表している。	自身の作品や他者の作品を客観的に観察し、その特徴を捉え、自己の作品制作に生かしている。	
評価の方法	・出席の状況 ・学習の参加状況	・学習の成果 (毎時間提出する作品課題で評価)	・学習の成果 ・小テスト	・考査 (書く能力を問う問題、理論問題を出題)	
配点(pt)	200	150	150	500	
評価					
観点別評価の合計点(1000pt)により、10段階評価を行う。					
学習のアドバイス等					
1. 毎回の授業にしっかりと出席し、授業内で出た課題をこなすこと。 2. 書道に親しみを持ち、意欲的に取り組むこと。 3. さまざまな作品に触れ、臨書学習を通しその作品の技法を身に着けること。					